



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2020年5月1日

5 月 第220号

奈良・人と自然の会



＜水生生物のための湿地の泥上げ＞



Contents



ホームページでは、**カラー**で見ることができます

URL <http://www.naranature.com>

壮春力歩	1	やさしい病害虫講座	7
Monthly Repo ならやま	2	ならやま投句箱	8
里山の今・花だより	3・4	ならやまプロジェクト	9
私のふるさと	5	行事案内・幹事会報告	10
字遊字感	6	臨時幹事会報告・編集後記	11



「やりがい」追求

会長 鈴木 末一

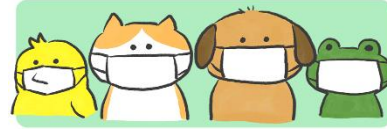
45名で呱呱の声を挙げて以来、早19年目を迎えます。発足以来今日まで自然を愛し、自然環境の保全に情熱を傾けて協働活動に勤しんでいただいている同志は、年々右肩上がり推移し180名に達しようとしています。会員数の増加に伴いまして、「ならやまプロジェクト」のウエートが、年々高まってまいりました。そのことは、毎週木曜日の定例活動日の参加者数の推移が示しています。20名前後からスタートしましたのが、今や80~90有余名という実態からも、そのことは明白であります。

2021年(令和3年)には、創立20周年という記念の節目の時を迎えます。この時に当たって、会の将来像、つまりあるべき姿を明確にしておくことが求められていると考えています。現状をつぶさに分析し、改革断行すべき課題を明確にしつつ、叡智を集めて解決に向け全力で取り組まなければなりません。

「みんな違って、みんないい」。そんな180の個性集団です。「知恵と経験は1万2千歳を超す」と「天声人語」の評価を受けました。この良識ある個性こそ当会のエネルギーです。心を合わせて、活動を通じて得られる「やりがい」を追求しようではありませんか。

こうは申しましたが、今は緊急事態宣言中です。私もささやかに緊急事態を体験しました。

峠が見えないコロナ禍、「3密もどき吹く風やマスク列」で、ドラッグストアには、早朝からマスクを求めて行列。自分自身を、そして人と社会を守るために、今すぐ実行できることは、お互いの距離を一定以上保つ「ソーシャルディスタンス」です。スーパーでの買い物、病院の待合室など、人との距離を2m以上保つことです。周囲の人のことを守るのだという自覚が求められているのに…。



最近、ドラッグストアは、マスク販売を少しずつ解禁するようになりました。そこで私も先日入手に挑戦。1軒目には「入荷予定なし」の貼り紙。直ぐに別の店へ。すでに何人かの人が並んでいる。私は11人目。前回、「販売数は10個です」という表示を見て、残念無念と諦めて帰りました。ああ今日も駄目かと半ば諦めかけた時、入り口に「本日の販売数は11個です」との文字。ラッキー！それでも次々と客がやってきます。「私までのようですよ」と、店員さんになり代わって、開店までに二十数人の客に言葉をかけました。中には不機嫌そうに無言のまま立ち去る人もいました。人づてに聞いた話ですが、店員さんに憤懣をぶっつけて、悪態をつくような非常識な人もいたようです。マスクだ自粛だと、何をするにも窮屈で気持ちが塞がりがちで、息苦しい日々が続いているせいでしょうか。人の心が荒み始めています。

ドイツのメルケル首相が、新型コロナウイルス対策について演説した言葉が胸を突きました。「普段あまり感謝されない人々に感謝の言葉を贈らせてください」。困難な仕事を担っている人たちや医療現場で奮闘する人たちなどへの謝意を一言一句に滲ませていました。「不要な人などいません。全員の力が必要です」「私たちは民主主義社会です。強制ではなく知識の共有と協力によって生きています」優しい語りで連帯を呼び掛けました。説得力ある言葉と行動力は「リーダーシップの教科書」と評されています。

私自身のことを振り返ってみますと、最も欠如していたのが、このことではないかと、自省の念で一杯です。

さまざまことを感じさせてくれる緊急事態です。

Monthly Repo. ならやま

八木 順一

3月26日(木) 活動 晴れ 70名+1名

春本番を迎え、活動も佳境を迎える頃だ。しかし世界中を蚕食するコロナウイルスの影響もここならやまでも顕著になりつつあり、感染拡大の影が目立つようになる。約一か月ぶりの活動になったが、朝礼や終礼のほか、全員揃っての昼食も取りやめ。寂しい活動日となった。いつまでこんな状況が続くのだろうか。見学者1名。また午後からは四阿でならやま委員会開催。里山Gはシイタケの菌打ちと杉の皮むき、エコGは夏野菜の種まきや畑へのチップ入れ、そして景観Gは第3駐車場の竹の処理を行う。またバイオ班は池の土かきや葦刈り、花班はアガパンサスの霜囲い撤去、パトGは1コースパトロールと観察路点検に取り組む。その他果樹班はユズやスダチの移植が中心となる。

4月2日(木) 活動 曇り 71名+1名

コロナウイルス感染拡大が止まらない。いつ収束するのだろうか。活動参加者は71名を数えるが、先週同様朝礼や終礼等も引き続き取りやめ。また本日は協働活動日。シイタケの菌打ち作業が行われる。見学者1名。午後からは図



録編集委員会と企画委員会開催。里山Gは協働活動や杉の皮むき、エコGは葉菜撤去やチップ入れ、そして景観Gは協働活動のほか竹林整備を行う。またバイオ班は池の泥かき、花班はアガパンサスの草引き、そしてパトGは2コースパトロールと階段修理整備、果樹班はヤブツバキやイチジクの移植と果樹の苗木の植え付けに取り組む。

4月9日(木) 活動 晴れ 65名

うららかな一日だ。しかしコロナウイルス早期収束の願いもはるかに遠のき、参加者の顔も不安でいっぱいだ。ならやまでもこれからの活動についての諸課題について、早速委員会が開かれる。また、遅れていたタケノコの収穫が始



まり、今年初めての販売になる。大豊作で会員の顔もニコニコ顔だ。今晚あたり各家庭の食卓にタケノコご飯があがるのではないだろうか。里山Gは佐保自然の森の駐車場整備、エコGは落花生畑の畝つくりと播種、そして景観Gと果樹班はタケノコ掘りを行う。またバイオ班はスイレン池の泥除去、花班は花ショウガの刈り取り、パトGは階段修理と安全ロープ張りに取り組む。

エコファームグループ

◆自然の怖さ

松本 武彦

新型コロナウイルスの拡散がやまず、外出や活動の自粛が求められる中、過日の新聞に、この影響を諸に受ける栃木県のイチゴ農家のことが取り上げられていた。

それによると、このイチゴ農家は、昨秋、関東地方を襲った台風 19 号でイチゴハウスが吹き飛ばされるなど甚大な被害を受け、被害額も多額となった。しかし、何とか生産体制を立て直して、春の収穫に希望をつないだという。

だが、安堵もつかの間のこと、すぐに次の困難がやって来た。今冬の日照不足である。本来、光を好むイチゴにとっては日照不足の影響は大きく、収穫量が上がらないままイチゴの旬である春を迎え、イチゴ狩りの客を待つことになった。

ところがまたも苦境が。新型コロナウイルスの拡散である。感染予防として外出の自粛措置が講じられたため、イチゴ農家は相次ぐ予約のキャンセルに直面しているという・・・。

イチゴ一つにも人の苦労が隠れていることを再認識させられるとともに、限りない恩恵を受ける自然ではあるが、時には災いとなって無差別に襲い来る怖さをも痛感している。

前段が長くなってしまったが、新型コロナウイルス感染予防のため、「ならやま」でも 3 月の大半が活動自粛となった。エコファームではこれがジャガイモの植え付けや夏野菜の播種時期と重なったため、作業の遅れも懸念されたが、有志の尽力により、これらの作業を終えていたしたのは何よりのことだった。おかげで、ビニールハウスではナスやキュウリ、ナンキン、トウガラシ等々多種の野菜が元気よく芽を伸ばし、皆さまとの出会いを待っている。どうぞお楽しみに。



景観グループ

◆ある日のならやま

西谷 範子

3 月、ならやま作業は 1 か月の休眠に入った。早春の木々や草の成長がこれから目覚ましくなる時である。この活動が生活の中にしっかり組み込まれてしまっている身としては、なんだか間が抜けたようではあるが、家でもやり残してある仕事は多く、退屈することはない。

ところがならやまに行かざるを得なくなった。景観グループの花の部を担当しているが、ならやま作業は週 1 回しかないので、種まきをして毎日灌水しなければ苗作りはできない。家で種をまき、本葉が出た頃にポットにあげて苗を作る。地植えに適した大きさになった時にならやまに運んで植え付ける。すでに種まきをしてあったナデシコの花が、3 月の陽気で日に日に伸び始めてきた。もう放っておけない丈になったので畑に植えなければならないのである。

誰もいないならやまは明るくて甘い暖かい空気が広がっていた。紅白の雪柳は満開になり、椿は好きな方を向いて咲いている。何といてもうれしそうに咲き誇っていたのは菜の花であった。なんとならやまに似合うのだろう。その黄色の花は青空に映えてならやまを謳歌していた。

水仙、チューリップ、レンギョウ、スノーフレイク、ハナニラ、白花タンポポ、ムラサキハナナ、花畑は早春のよそおい。オオイヌノフグリ、ヒメオドリコソウ、ハコベたちはもうとっくにならやまの主を気取っている。紅茶とパン、一人のお茶もいいもんだ。

畑の草を引き、ナデシコを植えた。当分来られないけど、自立してしっかり根付くようによく申し渡した。

前に草ひきをした所にツクシがたくさん出ている。今年はいちだんと増えたようだ。今日の晩ご飯はこれのごちそうにしよう。



パトロールグループ

◆ならやま観察路の整備

小島 武雄

2017年から3年間にわたり、「花王・みんなの森づくり活動助成」の助成金を受けて、観察路整備用の資材や備品をそろえることができました。また計画的な観察路整備、丸太階段等の補修を進めることで、ならやまの観察路はとてもきれいになりました。安全対策も進みました。



以下、花王助成金の内容として。

活動の1年目、主な観察路2km里山林周辺整備中心に作業し観察路の丸太階段やロープ設置等で安全な通行ができるようになった。対象延参加人数750人。2年目、ナラ枯れ被害の大きい観察路の整備に取り組み、倒木で通行が危険になった自然の森の観察路を、里山Gの協力を得て被害木を集中的に伐採することが出来た。この年でナラ枯れの被害が収束したと思われる。ただ2度の台風被害で、里山林は各所で通行不能になった。対象延参加人数659人。3年目は、前年の台風被害による多数のナラ枯れの倒木を、概ね伐採撤去した。滑りやすい急傾斜に安全ロープを張り、丸太階段もほぼ補修が完了した。対象延参加人数273人(活動中止により予定より人数減)

各年度、自然観察路を利用しての里山林自然観察会や親子を対象とした森林環境教育のシイタケ菌打ち、自然工作、樹木伐採体験、山遊びなどを開催。水生生物の観察や飯ごう炊さん等で子供たちの歓声がならやまに溢れた。また観察路の周辺に植樹(24本)、部分皆伐地域に子供たちによる多数のコナラ苗植樹(約150本)、などを行うことができた。助成金を得て観察路が見違えるように整備されたことに感謝です。

里山の今



花だより

◆竹と竹の子

坪井 都子

4月9日、ならやまの竹の子が大豊作。2束買ってご近所にもお裾分けできました。とっても美味しかった。タケノコ(竹の子、筍)は、タケ類の若芽。日本や中国などの温帯から亜熱帯で産するものは食材として利用されます。広義には、竹の皮が鞘に付着していて離脱するまでのものであれば、大きく伸びていてもタケノコといえます。では、ピーク時は1日で1mも成長するという「タケ」とは、一体何者なのでしょう?



イネ科タケ亜科に属する植物であり、大木のように茎(稈)が木質化する種の総称なのです。タケの周期は約120年、開花後は枯死します。タケとササ…タケは狭義にはササと区別される。稈が成長するとともに、それを包む葉鞘(竹皮)が早く脱落してしまうものをタケといい、枯れるまで稈に葉鞘が残るものをササという。タケの葉には格子目があるが、ササは平行脈。因みに、ササの周期は40年~60年である。

タケの種類…世界で600種とも1200種とも言われる。日本には150種とも、600種とも。日本では青森県から九州の広い範囲で生育するタケ類の内、代表的なものを挙げると、

- ・マダケ; ベースキャンプの西側に密生。
 - ・モウソウチク; ならやまで、竹の子が大豊作。
 - ・ハチク; アクが少なく、少し甘味。6月が旬。
 - ・キッコウチク; 亀甲状の節。お洒落な杖にも。
- 他にシホウチク、ホテイチク、ヤダケ等々。

タケの利用…タケの茎はほぼ円柱状の中空であり軽量。丈夫でよく撓るので、利用幅が大。竹垣・床材・籠・竹筒等、昔からの生活用具や扇子・茶筌等の日用品・民芸品等も多々ある。

竹は、今も私たちの生活を豊かに支えています。



私のふるさと

足立 勝洋

『私のふるさと』のお題を頂戴しました。これ実は、いつも困り気味です。というのは、私には故郷と呼べるようなところがあるのだろうか、いつも思うのです。社会人になる前の長期間、東京の中野区に住んでいました。中野は当時まだ少しは田舎びていましたが、でもやはり東京、変哲もない街なかでした。大手を振って、これが故郷デスと語れるような挿話もなさそうです。

小学校2年以前くらいにさかのぼると、私たちは、あの志村けんさんで有名になった東京都下、東村山に住んでいました。こちらは十分に田園でした。でも私自身が小さかったのも、ほとんど覚えがなく、挿話的に思い出すのは、三つだけです。一つは、級友の家が農家で、家の2階でカイコを飼っていて、クワの葉を音を立てて食べていたこと。二つは、裏山を歩いていくと、村山遊園地まで行け、そこのシイの実を採って食べたこと。三つに、母親に連れられて、所沢まで行ったのだが、何をしに行ったのか後で尋ねると、農家に行って自分の着物と食べるものを交換してもらったのだと。そういう時代でした。

さて、これでは話にならないので、最後までさかのぼらせて頂きます。すなわち、もう生誕地までさかのぼります。

四国は愛媛県です。ここでは、2、3歳くらいまでいたらしいのですが、何も覚えていません。でも、父親に聞くと、そこは、宇和島から東にミカン畑をずっと通り過ぎて行ったところ、川がそばを流れていたなど。それで、生家だと見せてくれたのは、特徴的な木が家の前に生えていた写真です。

社会人20年を過ぎた頃、思い立って自分誕生の地に行ってみたくになりました。現地の情報を古くはあるが、父親から仕入れ、いざ出発。

当時住んでいた和歌山県橋本市から、凝っていたバイクでのツーリング旅行です。どういう経路だったか忘れましたが、フェリーに乗り継いで四国上陸。

(高知、桂浜にて)

道を探ねながらツーリングを進めていると、お国の人の何と穏やかで親切なと、うれしくなります。そして、その村に入りました。しばらく、あちこち見て回ると、何か見覚えのあるような。



そして、アッと声をあげそうになりました。何と、あの父親の写真で見た木が植わっているではありませんか。これだこれだ間違

いない、それにしてもびっくり。前の道は舗装に変わっていましたが、まさに生家がそこにありました。そして、村の人たちが、あ、あの足立の息子さんがといて、仕事の手を休めて集まって下さったのも、感激でした。

それから、兄が通ったという小学校を見たり、そばに川が流れているのも確認したりしました。

この川は四万十川の支流です。幼い頃の夢枕に潜在意識でよく出てきたのは、川ではなく道端の溝のようなものでしたが、もっと大きく、この辺りの人がよくウナギを捕っていたというのもうなずけます。



この物語も、どんな展開があるかと思っていましたが、自分のフルサト探りの話ができました。ちょうど時間となりました。



マスクと緊急事態宣言

岡田 安弘

連れ合いはミシンに余念がない。新型コロナウイルス騒動でマスクが売り切れて以来、ありあわせの布切れでマスクを生産中だ。出来上がり次第、子や孫が取りに来る。我が家だけのことでなかろう。ならやまの仲間の家庭でも、様々な工夫をしておられると推察する。

全世帯にマスク 2 枚

TV の国会中継を見て、センセイ方の行儀のよさに感心する。与野党そろってマスク姿。安倍首相もマスクを通して答弁。これが話題の布マスクかと目をこらす。

首相が全国の全世帯に布マスクを 2 枚ずつ配ると決断したのは 4 月 1 日。エープリルフールの冗談と思いきやマジだった。翌 2 日、突然の発表。

アベノミクスをもじって「アベノマスク」がネット上をにぎわす。声なきヤジと言えよう。「もらえるだけで、ありがたい」と言った声もなかったが、大半は「マスクより休業補償を」といった切実な声。

この構想は早くからあったらしい。首相官邸の一人が「全国民に布マスクを配れば、不安はパッと消えますよ」と提案、メーカーと掛け合う内に事態は深刻化したのが真相のようだ。

賛否両論

おかげでマスクには種類があることを知る。どちらかと言うと布製は不利。繊維の隙間が大きい分、飛沫を防ぐのに適さないという意見や洗って繰り返し使用する際、管理に注意しないと雑菌がはびこるとの説もある。

5 年前、英国の医学誌に載った論文を紹介する記事が目にとまる。1600 人の医療関係者が、隙間の小さい医療用のマスクと布製マスクに分かれて感染リスクを調べた。結果は布製の方が、呼吸器疾患やインフルエンザ症状を示した人が多かったそうだ。世界保健機関も布製マ

スクは推奨していない。

税の使い道

政権党の幹部からも「政策の優先順位を間違えている」との声が聞こえた。配るなら全世帯でなくてよいと思う。医療現場や生活困窮者を優先すべきではないのか。首相がマスク配布を発表する前、政府の専門家会議は「このままでは医療現場が機能不全に陥りかねない」と警告を発していた。いま必要なのは、医療崩壊を防ぐための資金と人材だ。

布製マスクは 1 枚 200 円程度と、官房長官が記者の質問に答えている。全世帯を 5000 万戸として、2 枚掛ける 200 円を計算してほしい。送料も巨額だ。税金の使い道が違おうるのは私だけではないだろう。

緊急事態宣言

安倍首相が東京、神奈川、千葉、埼玉、大阪、兵庫、福岡の 7 都府県を指定して、緊急事態を宣言したのは 4 月 7 日。すでに東京の感染者数は爆発的増加（オーバーシュート）寸前。他の大都市も似たり寄ったりだ。

医療施設での集団感染（クラスター）や医療スタッフの感染も目立つ。医師、看護師、ベッド、高度な医療器具の充実が急務だ。知事や医療従事者からは「早く緊急事態を宣言すべきだ」との声が高まっていた。政府は経済の落ち込みを懸念して、宣言に踏み切れなかった。

▽

マスクの売り切れ状態は、解消の目途が立っていない。政府はようやく、一部で配布すると表明。全国に行きわたるのは、いつのことか。安倍さん、遅いよ。マスクも緊急事態宣言も。「1 か月の辛抱で治まると思わない方がよい。1, 2 年の覚悟が必要だ」。ノーベル医学賞学者の山中伸弥・京大教授は警鐘を鳴らしています。耳に届きましたか？

▽

閑話休題。「一家に 2 枚」と題したサザエさんの漫画を家族がスマホで見つけた。爆笑ですよ。まだの方はご覧ください。

やさしい病害虫講座 37

キュウリ、秋どり

木村 裕

家庭菜園ではどんな野菜を栽培されていますか？ たぶん「ならやま」で栽培していないトマトやキュウリでしょう。

その主役の一つであるキュウリは、5 月の連休頃に苗を植え付けて初夏から真夏に収穫するのが一般的です。我が家でもご近所からとれとれの果実を頻繁にいただきますので最近では自家栽培を取りやめています。しかしお盆を過ぎるといづこの菜園でも株はへたばってしまうように供給も途絶えます。

そこで昨年のご近所さんが栽培しない時期にあえて栽培を試みました。その結果を紹介します。

8 月初めに種をポット播きして、お盆のころに庭の片隅に 3 株植え付けました。根にこぶをつくるネコブセンチュウ対策として、各株のそばにはマリーゴールドの苗 1 株ずつ植え付けてセンチュウを寄せ付けないようにしました。

夏場のキュウリ栽培では葉に丸い茶色の斑紋が生じる褐斑病と白い粉がつくうどんこ病の発生が多いので、はたしてどうか？ (病害虫講座 16 参照)

予想通り、苗の植え付け後しばらくすると小さな褐色の斑紋が見つかったのでベンレート水和剤散布。これで一段落。

本葉が 5～6 枚開くころになると、葉の表面にミミズのように曲がりくねった細い白い筋が現れました。これはマメハモグリバエという小さなハエの幼虫が葉の中に潜って、トンネルを掘るように葉の組織を食い荒らしたものです。まあいたしたことはないだろうと無視。



草丈が私の背丈くらいになったころ、あちらこちらの葉に白いカビが生えているのに気づきました。うかつにもうどんこ病の初期の発生を見過ごしていました。しまった！油断していた！とあわててうどんこ病の特効薬（トリフィン水和剤）の散布となりました。防除効果はてきめんでした。

一部の葉がしおれ、糸でつづられているのに気が付きました。葉裏を搜索して体に刺のような突起をもったアオムシを見つけて捕殺。これはウリキンウワバという蛾の幼虫です。



ハモグリバエは、少しは遠慮しようかという気配りもなく、10 月になっても勢いは止まらず、被害はどんどん増え、葉には無数の白い筋が現れて白っぽくなり、果実にも傷がつくようになりました。あわてて殺虫剤散布となりましたが手遅れで虫の勢いを止めることはできませんでした。これは失敗。10 月末に再びうどんこ病が発生しましたが、殺菌剤の散布でこたなきをえました。

10 月末にハモグリバエの被害跡を足掛かりにして斑点細菌病が発生し始めました。葉に黄褐色の小さな斑点が無数に発生します。この病気に対する特効薬はなく、お手上げ。ハモグリバエに対して甘い顔をしたのが間違いのもと。

キュウリの収穫は 9 月末から始まり、10 月になると収穫は順調で毎日 2～3 本はとれ、11 月まで続けました。さすがに 11 月も 20 日ころには寒さのため勢いが衰え、つるも活力をなくしてずり落ちるようになったものの、11 月が終わってもまだ生きていました。よく頑張るね。



ならやまトーク・投句 (惜春・新緑編)

春雨や人待ち顔の人力車

藤原 勉

(新型コロナウイルスで観光客の途絶えた街の風景、擬人化された人力車と春雨の取り合わせの妙。深刻な背景のテーマを淡々と詠む)

大掃除自宅待機の卑月かな

岡田安弘

(外出自粛勧告にぼんやり部屋にこもる。嫁から大掃除の緊急指示。昔は役所から大掃除の通達が出た。大掃除は3月の季語だった)

薰風に自宅待機の窓開く

岡田安弘

(家に閉じこもっていると、こんなにも風が恋しくなるものか)

種をまく夢追い人やシニアたち

鈴木未一

(ならやまは夢追い人の集まり。幾つになっても夢は人生の糧と)

風信子ラーメン店のまねき猫

鈴木未一

(この句どう読み解くのか。ヒヤシンスの花言葉は「悲しみを超えた愛」、「スポーツ」。まねき猫にされた風信子の悲哀かも?)

今盛る桜の下に昼餉とる

ハ木 順一

(ならやまベースキャンプの川井桜は満開。花の下で弁当を開く。思ひ出話に花が咲けば、握り飯の上に花びらが一片また一片)

川井桜今年も見せる笑顔かな

中井 弘

(川井桜が今年も見事だ。在りし日の温顔にオーバードラップする)

投句歓迎 (古川まで)

峻崖をあげぼのつつじ幕開ける

中井 弘

(岩壁にアケボノツツジが咲く。春の登山シーズンの幕が開く)

野山越へ結願の寺春の雪

藤原 勉

(四国八十八カ所を区切り打ちて歩き遍路をした。難所「遍路転がし」の山道、波をかぶる海岸線、二日間ひたすら歩き辿り着いた八十八番大窪寺で結願、思いを噛締めた。春の雪が句を引締める)

大極殿風鐸鳴らす春嵐

阿部和生

(春の強風に風鐸がカランカランと大きく響く。大極殿の大屋根を見あげると、空に桜の花吹雪が舞う。平城宮の情景が浮ぶ)

幼児ら風に戯むる春野かな

阿部和生

(嬰兒と幼児が舞う花に戯れてよちよち追いかけて。心とむ景色)

まつりはっぴ

春の通夜祭法被に焼香す

阿部和生

(幼馴染の友人の通夜に参列した。大のお祭り男だった故人。祭壇には生前愛用の祭り法被が供えられて。思わず語りかけた作者)

野の花の春爆発す故郷の家

阿部和生

(今年も雪が少ない。故郷の我家に帰ると、放置していた庭や畑では春の野の草花が我が物顔に氾濫。辺りを埋め尽くしていた)

梅の実の翡翠と光る雨上がり

古川祐司

(梅2トンの夢。今年は大豊作の予感、指先ほどの青い実が愛おしい)

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず

活動日： 毎週木曜日 9:00~15:00

(前日水曜日、19時前のNHKTV天気予報にて午前中の降雨確率

60%以上の場合は翌金曜日、木曜日の同予報も同様であれば金曜日中止)

場所：奈良市佐紀町、奈良阪町、法蓮町、法華寺町にまたがる約16haの里山林地

アクセス：JR平城山駅下車：東口から南へ徒歩10分

または、奈良交通バス亭「佐保台西口」又は「平城大橋」から徒歩7分

携行品など：弁当、飲み物、軍手(作業用具は現地で用意)お椀、箸、コップなど

お問い合わせ：八木



5月の活動について

5月7日：協働活動日

5月28日：備品点検日

5月の各グループ活動予定

グループ	
里山	佐保自然の森駐車場の整備／里山林内の整備／シイタケ櫓木本伏せの準備 部分皆伐地周辺の下草刈り／マキ割り ユート ：松山平の整備&植菌予定／松林整備地区の整備&植菌予定
エコファーム	サツマイモ植え付け、ゴーヤ、ズッキーニ、オクラ、胡瓜植え付け／苗代管理 水路整備(排水口、取水口)／茄子、唐辛子、トマト、支柱立て／ニンニク、タマネギ収穫
景観	整備 ：BC周辺の草刈り・彩りの森切り株の除去、ミツバチ巣箱周辺整備 ビオ ：池整備／ 花 ：山野草園草取り・整備／アガパンサスの柵作り／黄菖蒲園剪定・整備／花菖蒲園草取り・施肥／西花壇草取り・整備／葉牡丹撤去、整地／夏花苗植え付け、道路ぞい花壇草取り・整備
パトロール	観察路点検&整備、ミーティング／メイン階段、丸太階段、手摺ロープ、 標識ペンキ補修／BC自転車置き場周辺整備／水路改修準備 コースパトロール 3-4-1-2
果樹	ブルーベリーへの施肥／キウイの棚の建設準備／倉庫用地準備／キウイ 棚の基礎作り／実りの森の草刈り／果樹園の草抜き／グミのネット張り キウイ棚の組み立て／備品点検

コロナ禍収束の見通しが見えない中、「うつらない」「うつさない」を徹底し、不要不急の外出禁止を遵守し3密(密閉、密集、密接)を避けるために、**活動は5月末まで休止**することになりました。

一日も早く少しでも状況が改善し、活動が再開できるようになることを願ってやみません。

行事案内



宇陀松山城跡・薬草の里の散策

富井 忠雄

6月例研は、歴史的まちなみ宇陀松山重要伝統的建造物群保存地区を訪れます。

宇陀松山地区は、戦国期に在地領主であった秋山氏の居城と城下集落として誕生し、織豊期から江戸期初頭にかけて、豊臣家配下の大名によって大規模に整備されました。宇陀松山城破却後も、織田家松山藩の治世を経て、幕府領へと移り変わっていく中で、商家町として繁栄し、その活況ぶりは「松山千軒」「宇陀千軒」ともいわれ、また薬の町として江戸時代後期には、50軒を超える薬種問屋がありました。

行先：宇陀松山地区・松山城跡・森野旧薬園など

日時：令和2年6月9日(火)

集合場所：近鉄榛原駅 10時00分改札口前

行程：榛原駅 10:10 バス一道の駅大宇陀—宇陀松山城跡(昼食)—森野旧薬園—薬の館—道の駅大宇陀—榛原駅 15:30 行程約5km 予定
雨天時実施の有無：申し合わせ通り

連絡先：富井忠雄

**6月9日の月例研修会は
コロナ禍収束の見通しがつかない中、
中止になりました。**

世話
*コ
メー

5月の行事について

*5月13日の歴文研修会は **10月に延期**

*5月18日の自然教室は **中止**

6月ならやま活動&行事予告

*ならやま活動(木)

4日 協働活動日・アダプトプログラム

18日 春の感謝祭

*月例研修会(上記参照)

*自然教室 22日 馬見丘陵公園自然観察会

2020年4月度幹事会報告

日時： 3月31日(火) 14:00~15:00

場所： 奈良市中部公民館

出席者：17名、欠席者：6名

(議事録よりトピックスのみ)

I 会長挨拶

- ・新型コロナウイルスについての注意喚起
- ・20周年記念キャッチフレーズ、ロゴマーク
選定結果の表彰を総会にて行う

II 事務局・会計報告

- (1) 会員数：174名(5名増減)
- (2) 会計報告：特に問題なし

III 活動・行事に関わる課題・懸案・確認事項

- (1) イベント行事の実施については新型コロナウイルスの感染状況によって柔軟に考える。
- (2) ならやま活動は「3密」避ける工夫をしながら、各グループ主体で行う。
- (3) ならやまの当日活動予定は、ホワイトボードにて周知する。
- (4) 水路変更工事については、重機手配の都合を確認後、具体的な実施計画を考える。

IV 企画・助成金事業案件

- (1) 図録編集委員会の進捗：特に問題なし
- (2) 各種助成金事業進捗：特に問題なし
・林野庁関係の今後の申請について再確認中

V 喫緊・提案事項

- (1) 第19回通常総会の準備は順調
- (2) 臨時幹事会を4月13日に開催する。

(3) VI 広報関係

- ・5月号編成案の承認。

VII 報告・連絡事項

- ・活動報告と予告：会報誌参照
- ・5月度幹事会：4月28日(火)

幹事会は、広い会議室に変更して窓と扉を開放、十分な間隔をとり、全員マスク装着のうえ、時間短縮を念頭に簡潔に実施された。

2020 年 4 月度臨時幹事会報告

日時： 4 月 13 日 (火) 14:00~16:30

場所： リガーレ春日野

出席者：15 名、欠席者：8 名

(議事録よりトピックスのみ)

I 会長挨拶

- ・総会準備と今後の活動について臨時幹事会を開催することとした。

II 議事

1. 総会準備

(1) 2019 年度収支報告

- ・収入面で、助成金、寄付金が大幅に増加したため次期繰越金が大きくなった。
- ・今後の大型機器購入および大幅な収入不足に対処するために積立金(ならやま基金)を期首額(100 万円)に戻すことにする。

(2) 2020 年度予算案

- ・消耗品費が急増傾向にある。会員増、機器補修費増が原因であるが、単年度収支では大幅な収入不足であり今後は節減を考えていく必要がある。

(3) 活動報告、活動計画については各グループで内容チェックのこと。

(4) 会則改定と役員改選

- ・機動的な組織運営を行うために会則を改定する。
- ・役員候補者については各グループでの人選を踏まえて後日決定する。
- ・幹事の裾野を広げるためにグループリーダーに代わって幹事会に出席できる「チーフ」を選任する。

2. コロナウィルス感染拡大対策

- ・会の活動は 5 月 6 日まで休止する。
- ・19 回通常総会は通信によって行うこととし、事前に資料配布のうえ、議決権行使書(委任状)の返信をもって決議する。

以上



<なぜ? 問いかけてみよう>

日本の数学者がすごいことをやってのけたらしい。ABC 予想の証明。何それ? 「 $1+8=9$ $8=2^3$ 、 $9=3^2$ $9>1\times 2\times 3$ この 1,8,9 のような組み合わせ A,B,C はほとんどない」という予想を証明したらしい。

16 歳で飛び級でプリンストン大学に進んだ天才がこの研究に 10 年、世界の数学者がその論文を解読するのに 8 年もかかった。いくつものノーベル賞に匹敵するとの評価。その価値は私にはわからない。ただ、何となく現在の科学文明はそうした基礎研究の上に成り立っているのだろうと思う。

何気なく当たり前に思っていることに、「なぜ」を問いかけることは新たな発見の源だ。「なぜ」を 3 つ続けると真因に近づくという。今回の偉業は、途轍もないことの真因につながっているかもしれない。

自分は身近な「なぜ」にきちんと答えられるだろうか?

「なぜ」ならやまに行くの?

「だって」仲間と活動して楽しいんだもの

「なぜ」楽しいの?

「だって」いろんなことを分ちあえるんだもの

「なぜ」共感し分ちあえるの?

「だって」ONE TEAM だもの

そんな「ならやま」を守るためには? all for one よりまずは one for all! みんなのためにちょっと「無理」もして頑張ってみようかなあ・・

発行：奈良・人と自然の会

URL : <http://www.naranature.com>

編集代表 Mail: editor@naranature.com

<表紙写真>

水生生物のための湿地の泥上げ

水中、水辺を住処にする生き物たちがよろこんでくれるように・・・(すでに囲いも整備されてきれいな住処になっています)